

講義名	対)発育発達論				
担当教員	北村 裕美				
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 3時限		授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考	
主題と概要					
本講義では、ヒトの誕生から成長、成熟、老化といった各過程における身体的、心理的、社会的特徴について学習する。特に、発育期における運動遊びの重要性やスポーツ外傷・障害予防の考え方について、最近の知見を紹介しながら概説する。					
到達目標					
①発育、発達、加齢に伴う身体変化について、説明できるようになる。 ②現代の子どもの諸問題について、説明できるようになる。					
提出課題					
確認テスト（毎授業時に行います） コメントシート					
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック					
必要に応じて、個別に返却する。					
評価の基準					
期末試験・・・100% *所定の出席（2/3以上）に満たない場合、単位は認定できない。					
履修にあたっての注意・助言他					
①本講義は、「健康運動実践指導者」受験資格取得に必要な科目である。 ②対座席では、感染予防に向けた生活や受講ルールを厳守すること。 ③クラブ活動、就職活動による欠席は考慮しない。					

教科書

.使用しない。

プリント資料及び参考文献

<資料>
適宜、授業中に配布する。
<参考文献>
・大人が知らない子どもの体の不思議、棚原 洋一、講談社、2008年
・子どもに「体力」をとりもどそう、宮下 充正、杏林書院、2007年
・子どもの保健と安全演習ブック、小林 文、旺井ますみ他、ミネルヴァ書房、2020年
・こどもの病気の地図帳、鴨下 重彦、柳澤 正誠、講談社、2002年

授業計画

1. はじめに
2. 発育・発達とは
3. 乳幼児期の発育
4. 乳児期の発達
5. 幼児期の発達
6. 学童期の発育
7. 学童期の発達
8. 子どもの健康と安全
9. 思春期の発育
10. 思春期の発達
11. 青年期の発達
12. 加齢・老化とは
13. 中年期の加齢変化と健康
14. 老年期の加齢変化と健康
15. まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：授業計画に合わせて、自分の子どもの頃の体験を整理したり、家族や身近な大人に身体の変化について尋ねたりすること（2時間）。
復習：授業中に理解できなかった専門用語や内容は自分で調べたり、質問したりして理解を深めること（2時間）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本講義は、健康分野に関する基礎知識の習得を到達目標としており、ディプロマポリシーの一部に貢献する科目である。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

双方向授業では、Microsoft Formsを使用する。

実務経験の有無及び活用

備考

新型コロナウイルス感染症等の学校感染症への感染者または濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった場合は、解除後に課題学修などの対応を講じる。